第25期第3回
東日本大震災に係る食料問題分科会・議事概要

1. 日時 令和4年11月19日（土） 11：45～13：15
2. 会議形式 対面（双葉町産業交流センター）及びオンライン会議併用（Zoom）
3. 出席 中嶋康博、眞鍋昇、小山良太、澁澤栄、清水誠、関谷直也、那須民江、萩原篤志、本間香貴、渡部終五
陪席 河野道子 日本学術会議事務局 参事官（審議第一担当）付 第2部担当
八木信行 東京大学大学院農学生命科学研究科教授
丹波史紀 立命館大学産業社会学部教授
野崎哲 福島県漁業協同組合連合会 代表理事会長
鈴木敏男 同上 専務理事
小松祥久 同上 総務部部长
橋本靖治 双葉町秘書広報課課長
葛西優香 東日本大震災・原子力災害伝承館 常任研究員
清水裕香里 特定非営利活動法人JIN 代表

4. 議題

(0) 確認事項

- ・定足数の確認：10名が出席し、分科会は成立した。

(1) 前回議事録

前回議事録が承認された。

(2) 公開シンポジウムの進め方について

各自の発表資料に基づき、分科会に引き続き開催されるシンポジウムの内容および進め方について確認が行われた。

(3) 今後の分科会活動について

今回の「公開シンポジウム」後の活動については1月に分科会を開催し、検討することとなった。

(4) その他

特になし。

第25期第2回
東日本大震災に係る食料問題分科会・議事録

1. 日時 令和4年11月19日（土） 11：45～13：15
 2. 会議形式 対面（双葉町産業交流センター）及びオンライン会議併用（Zoom）
 3. 出席 中嶋康博、眞鍋昇、小山良太、澁澤栄、清水誠、関谷直也、那須民江、萩原篤志、本間香貴、渡部終五
陪席 河野道子 日本学術会議事務局 参事官（審議第一担当）付 第2部担当
八木信行 東京大学大学院農学生命科学研究科教授（分科会不参加？）
丹波史紀 立命館大学産業社会学部教授（分科会不参加？）
野崎哲 福島県漁業協同組合連合会 代表理事会長
鈴木敏男 同上 専務理事
小松祥久 同上 総務部部长
橋本靖治 双葉町秘書広報課課長
葛西優香 東日本大震災・原子力災害伝承館 常任研究員
清水裕香里 特定非営利活動法人JIN 代表
 4. 議題
 - (0) 確認事項
 - ・定足数の確認：10名が出席し、分科会は成立した。
 - ・議事に先立って、出席者および陪席者の確認・紹介が行われた。
 - (1) 前回議事録
 - ・前回議事録の確認：承認された。
 - (2) 公開シンポジウムの進め方について
 - ・小山委員より資料2＜シンポジウムポスター＞に基づき内容の紹介が行われた。
 - ・総合討論については関谷委員から進め方について確認が行われた。
 - ・シンポジウムの講演者から実際に使用するスライドに基づき概要の紹介が行われた。
- 第1セッション 農林水産業
小山委員「農業の11年の総括と展望」
清水氏「施設花き生産を核にした風評に負けない農業経営」
野崎氏・八木氏「水産業の11年の総括と展望」（八木氏の部分は小山委員が代わりに紹介）

八木氏「失われた水産物需要を回復させるためには」(八木氏に代わり小山委員が紹介)
第2セッション 地域の暮らしの問題

丹波氏「地域の暮らしの11年の総括と展望」(丹波氏に代わり小山委員が代わりに紹介)

橋本氏「東日本大震災・原発事故と双葉町の復興状況について」

(中嶋委員長) 処理水の問題はふれるのか？

(野崎氏) それなりに触れる予定

(中嶋委員長) 質問があると思うので、確認させてもらいました。

(中嶋委員長) 冒頭に紹介させてもらう予定ですが、浜通りで公開シンポジウムを行うのは初めてです。

(清水氏) 講演者の方から講演内容について要望があれば

(小山委員) 参加者に福島の状態を知ってほしいというのがあるので、そういったものが引き出せるようにしたらいいと思う。コロナ禍の変化など直近の話題や、最近の新しいチャレンジが伝えられたらいいと思う。

(関谷委員) 総合討論で論じていきたいので、要望なども出してもらえれば良いと思う。

(那須委員) 福島のことだけでいいのか？提言なども考えていく必要がある。

(関谷委員) そのようなことを総合討論で出していただければ、それについて論じていきたい。

(中嶋委員長) 違った視点なども出していただけると良いと思う。

(那須委員) アメリカやイギリスとの違いを考えると、リスクの捉え方が大きく違う

(中嶋委員) リスクコミュニケーションをどうするかが大きな問題。

(野崎氏) リスクをどうするかという考えがあれば、もう少し違う対応も考えられたかもしれない。例えば安全と安心の違いなど

(関谷委員) 簡単な問題ではないと総合討論でも示してもらうことが重要と思う。

(中嶋委員長) 是非総合討論で取り上げていただきたい、論点です。

(関谷委員) ある程度の質疑を取り上げて、傾合いをみてこの話に振りたいと思う。

(澁谷委員) 安全なことと安心なことを区別しながら、どう組み合わせるか。今回何らかの形で深まっていくと良いと思う。

(中嶋委員長) 中間貯蔵の問題に関して質問があればどうしますか

(?) 特に触れる予定はないが、状況に応じて説明したい。

・途中から参加した丹波氏より講演内容の概要の紹介があった。

(3) 今後の分科会活動について

第25期は来年の9月までなので、あと一年。

・委員長よりもう一度シンポジウムを行うかどうか、その後も分科会を継続するかどうか

か、発議が行われた。

(中嶋委員長) 続ける続けないの議論は 25 期の間に行う必要があるため、1 月中にオンラインで分科会を行うことを承認いただきたい。

(萩原委員) どこに集中すべきが論点があると、議論が進めやすいのではないか。例えば安全・安心について、国民の 3 分の 2 程度でも納得できるような、アメリカの FDA のような認証機関があればいいのであれば良いのではないかと思っている。

(清水委員) 分科会の進め方について異論はない。つい先日聞いた講演では、日本の食品に対する忌避反応について、日本では低くなってきているが、中国・韓国・台湾については依然として高いことに加え、欧米でもいまだに高い状況である。これは逆に言えば日本での情報発信が効果を及ぼしているといえるのではないかと考えている。

(本間委員) 分科会の進め方について了解した。

(渋谷委員) 分科会で筋を通してきたのは、生産者側の寄り添いながら、未来を模索する姿勢である。11 年の総括として科学者と生産者・事業者の信頼関係が深まってきたと考えており、分科会の役割が果たしてきたのではないかと考えている。今後については単純に継続というよりは、今後の在り方を踏まえた検討が必要である。

・ 対面参加の委員からも次回の開催について同意が得られた。

(4) その他

・ 特になし

以上